

桜蔭

《第38号》

目次

俳話会代表として	瀬戸 深水	1
遠花火	瀬戸 深水	2
叛	増田 守	3
特別作品	倉橋 羊村 他	4
桜濛集	青木美紀子 他	10
追悼・重富北坡代表		
「重富北坡さん」	倉橋 羊村	19
「哀悼・重富北坡さん」	飯村寿美子	20
「重富北坡氏を悼む」	小川 玉泉	20
「重富北坡さんを偲んで」	西山 浅彦	21
追悼句15句		22
重富北坡遺句抄		22
桜蔭俳話会回想	平井 与史	23
聞き書き 大工さん昔ばなし	秋山 佳史	25
共感十句 (桜蔭37号)		27
通信俳句高得点句一覧 (第86回～第94回)		29
通信俳句諸先生方の特選句 (第86回～第94回)		30
句会記録 (第255回例会～第279回例会)		32
編集後記		34

表紙 句・字 倉橋 羊村 / 題字 梅原 清山

俳話会代表として

瀬戸 深水

この度重富北坡さんの逝去に伴い後任に推挙されましたが、北坡さんの俳句に対する情熱や精進に比べ、私はただ会員の一人として又趣味の一つとして参加していたのに過ぎません。辞退したのですが、結局お引き受けする事となりました。唯高齢であること、会場までの交通機関の不便さを考えて、実務については副代表の増田守さん、会計の稲葉幸さん、編集の佐渡谷秀一さん方におまかせ致しただけお願い致した次第です。

私が中学四年生の時一級上の重富さん達が同好会としての神中俳句会を立ち上げ、我々下級生も何名かが参加しました。卒業後は俳句とは縁がなくなりましたが転勤先の職員から俳句の会があるので参加されなにかと誘われ、三十年振りに五七五の世界と関係を持ちました。丁度その頃タイムング良く村田豊三郎さんから俳話会の設立にあたり会員になるよう勧誘され入会した次第です。多分中学時代の俳句会や校友会誌「桜蔭」等から名前を拾ったと思います。当時は我々より十年以上の先輩も各地から集まられ毎回二十名前後の集会でした。会場は今と同じ場所旧図書館のあったあたりです。

最近では中学の会員は数名となり年月の長さを感してはいますが、高校の方々にもっと入会して戴き、又桜蔭会員以外の同好の士にも参加され会を盛り上げて戴きたいと思えます。会場がやや不便な坂の上なので句会の参加者の少ない事が気になりますが、俳話会の「話」の字に注目して豊かな楽しい時間が過せるような会になって欲しいと願っている次第です。

訃報

山本 鷺鳴 (尚久) 様
平成十九年八月二十六日逝去

岡村 孝 様

平成二十年三月十三日逝去

合田 喜余子 (圭) 様
平成二十年八月十三日逝去 享年九十一歳

重富 北坡 (英巳) 様

平成二十年三月十一日逝去 享年九十二歳

佐々木 慈風 (滋) 様

平成二十年十一月十二日逝去 享年八十五歳

おぼりになられた方々の当会における長年
のご貢献に感謝いたします。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。合掌

編集後記

「桜蔭」第三八号をお届けします。倉橋羊村先生を初めとして外部選者の各先生方より玉稿を賜り、また、皆様方のおおくのご助力によりまして、発行に漕ぎつけることができました。厚く御礼申し上げます。ここ二年間の活動記録と成果の集成ですが、平成二十一年三月におおくなりになりました前代表・重富北坡氏追悼の特集号ともなりました。

二十二年初めには、活動内容の広報と参加メンバーの拡大を目指して、俳話会のホームページも立ち上げる予定です。

俳話会の活動は一重に重富北坡代表の主導により保たれてきたといつて過言ではない。その中で、平成十九年十一月の会に初めて欠席されるも翌年十月までは、入院、輸血を繰り返しつつ無欠席で句座を主宰されていた。そして翌月、句会日の二日前に稲葉さんに「句会は休みと伝えて下さい」と電話があつてから二十一年三月まで自然休会が続き、同月逝去された。合掌

次いで四月、此れまで先達が築いてきた歴史を中断させない為の新しい体制を話し合った。幸いなことに通信句選句の諸先生方にも継続のご快諾を頂戴出来、真に有難いことだと感謝している。(秀一)

桜蔭 第38号

平成二十二年二月一日発行

発行人 桜蔭 俳話会
編輯人 瀬戸 深 水

〒二二一〇〇六三
川崎市中原区小杉三十四三十五
一三〇七号 増田方
☎(〇四四)七二一五三〇七

発行所 財団法人桜蔭会
〒二二〇一〇〇五三
横浜市西区藤棚町二一九七
☎(〇四五)二四三一八四四〇

印刷所 有限会社ワコ
〒二四一〇〇三二
横浜市旭区鶴ヶ峰千五百一十八
☎(〇四五)三七〇一三三九四